

うちの学校

紹介しまあ!

その14
志筑小学校



志筑小学校が位置する旧津名町志筑は、中橋商店街を中心とした商業の街として栄えてきました。志筑小学校の本年度児童数は、1年生が60名、2年生が60名、3年生が65名、4年生が66名、5年生が73名、そして6年生が55名、合計379名で、市内最大規模の小学校となります。志筑小学校における人権学習の一環として、命についての校外学習が行われました。

悲しんでいる人に

「寄り添う」お仕事

「こわいと思うお友だちは、見なくてもいいからね。途中でそう感じたら、退室してもいいからね。」4年生の子どもたちが「骨上げ」を見守りました。「お焼香をあげる」「ろう



ペットの「骨上げ」



納骨堂でのお話

そくを点す」など疑似体験だけの予定でしたが、前日、ご高齢で一人暮らしのおばあさんが、長年、連れ添ったペットの犬を亡くされ、ここで火葬されました。おばあさん自身が遺骨を拾ったのでしたが、ご高齢が故にかなわず、「見学に来た子どもたちが、もしよければ見守ってくれてもいいですよ」ということで、子どもたちに声がかけられました。おばあさんの気もちに寄り添おうと、全員が遺骨のまわりに集まり、その場面を見て説明を受け、最後は手を合わせました。

学ぶことができました。「ペットの葬儀場(チロの日記)」の仕事って、どんな仕事だと思いませんか? という発問を投げかけ、仕事で大切にされていることやどんな思いでされているかなどをふり返りました。「命を見とどける仕事」「死となり合わせの仕事」「その人の心によりそう仕事」「(日程調整などで飼い主さんの希望に添えず)苦労することもあるけど、/ありがとう」と感謝される仕事」と感じとっていました。さらに、「チロの日記」の片山さんご夫妻から、次のようなお言葉をいただきました。「亡くなった相手を忘れないことが大切になっているというんだよ」「そして「生きている今を、大切にすること」「それは、自分やお友だち、ご家族を大切にすることだよ」

これから学校生活で、またそれぞれ生き方に活かされていくことが期待されます。

淡路市の

「人権意識調査」から

シリーズ⑩

テーマ いじめ



「いじめ」は昔からある問題ですが、「人権意識調査」では「いじめはいじめを受ける子供にも問題がある」という意見についてどのように思うかを、年齢を集計したものをグラフ化してしました。そこで年代別に分けたデータをグラフ化させてみると、以下ようになります。

20代と40代では「問題があると思う」「どちらかといえばそう思う」が少なく、70代では多く見られます。しかし、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」は50代と70代が多く、40代では少なくなっています。更に、「どちらともいえない」が多いのは実は40代という結果でした。

40代は人の多様性を人生の経験として学ぶ年齢とも言えますので、どちらの意見も尊重するという考え方になるのかもしれない。そして、70代になると自分の意見をハッキリと主張できる人が多いのではないのでしょうか。これは、「いじめ」に対する思考の方向性のひとつかもしれません。

【問】 あなたは、子どもの人権に関する次のような意見についてどう思いますか

いじめはいじめを受ける子供にも問題がある (年代別)

